

三宅島

概況(平成16年4月)

火山活動は全体として低下傾向にあります。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、最近1年あまりは概ね横ばい傾向となっています。連続的に発生している火山性微動の振幅も長期的に小さくなっていますが、山頂直下の火山性地震の活動は継続しています。観測開始以来続いていた三宅島の収縮を示す地殻変動は、一時停止していましたが、再び収縮傾向となっています。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 火山情報発表状況(三宅島)

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第180号 (1日2回発表)	1日 09:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第239号	30日 16:30	

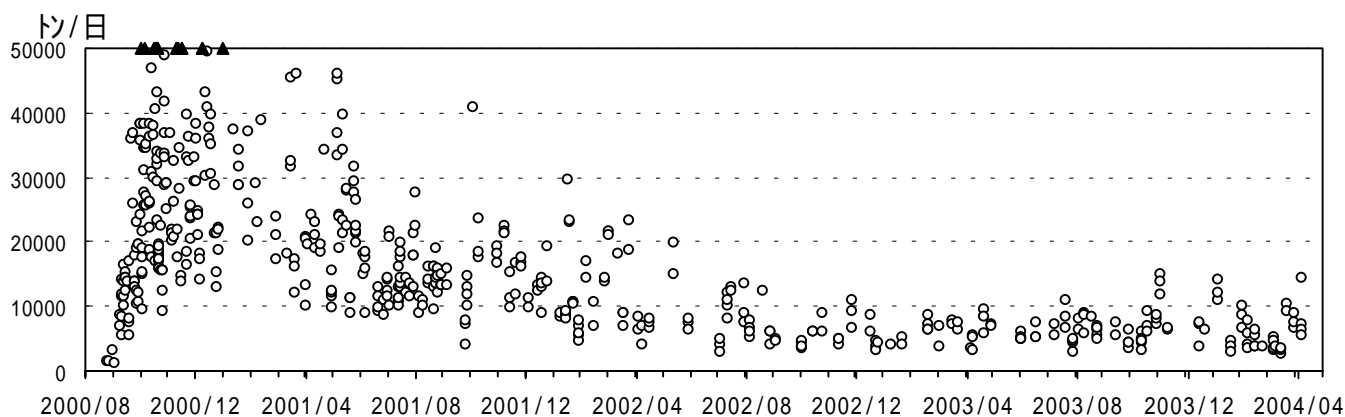
火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

4月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。

(表2、図1)

表2 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果(三宅島)

観測実施日	二酸化硫黄放出量(トン/日)	火口内最高温度	協力機関
4月1日	8,800 6,500 7,500	84	航空自衛隊
4月8日	7,300 14,400 6,400 5,600	-	警視庁



注: は50000ト/日を表す。

図1 三宅島 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日~2004年4月30)

地震活動の状況

山頂直下の地震活動は、やや低周波地震の回数が2003年4月～2004年1月まで増加、また、一時的に2004年3月に増加しましたが、今月は回数が減少しました。高周波地震と低周波地震の活動は低い状態が続いています。(表3、図2 - ~ -)

表3 火山性地震日別回数表 (三宅島)

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	2	0	1	0	0	2	1	1	1	0	8	
やや低周波地震	25	5	17	8	10	6	12	27	6	22	138	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	0	0	1	3	0	1	1	1	1	8	
やや低周波地震	9	12	5	11	9	30	13	17	3	2	111	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	2	0	2	0	3	1	0	8	24
やや低周波地震	11	8	5	3	2	3	1	0	8	3	44	293
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

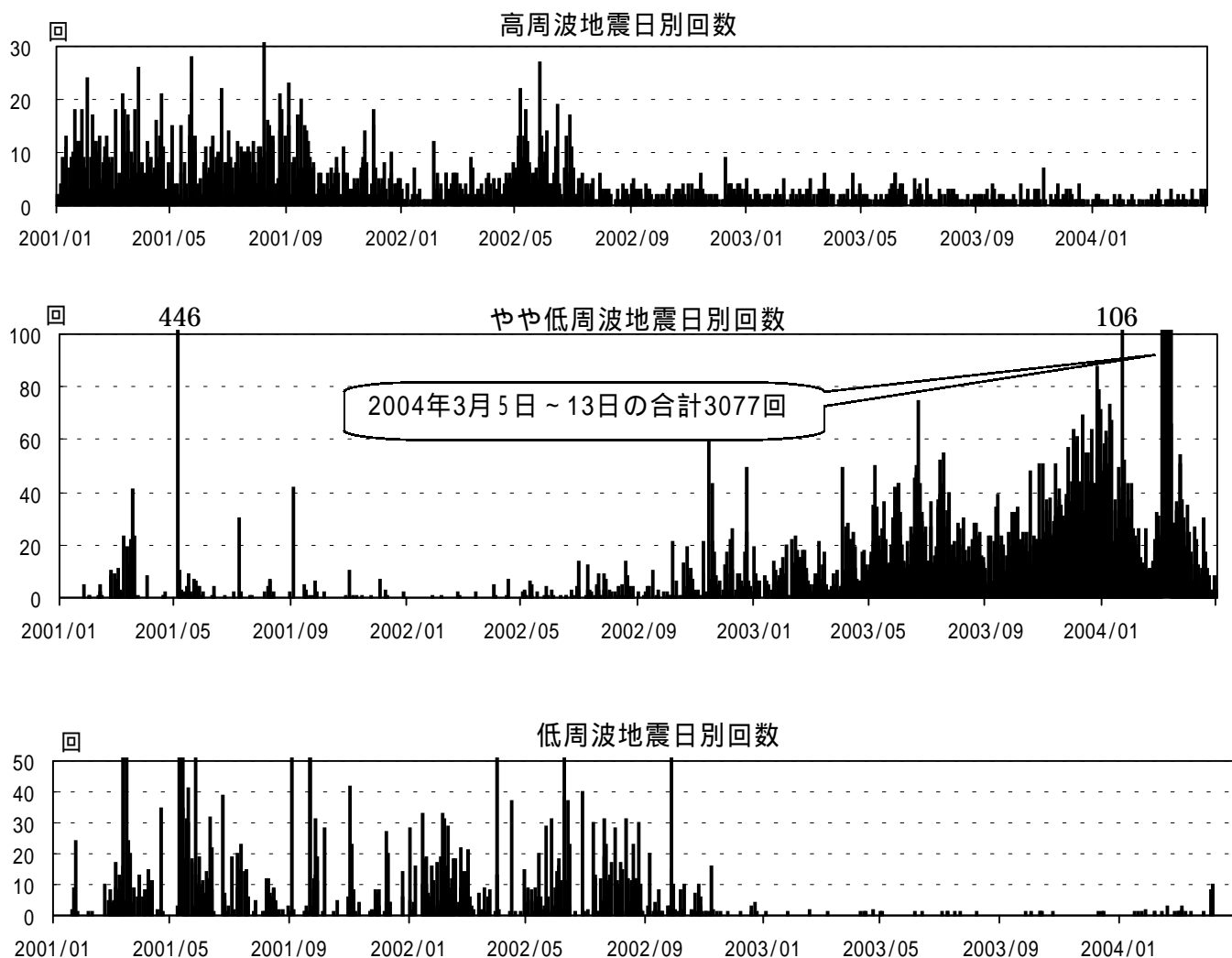


図2 三宅島 火山性地震活動経過図 (2001年1月1日～2004年4月30日)

火山ガスの放出活動と関連があると考えられている連続微動の振幅は、長期的には低下傾向にあります。2002年末から横ばい傾向が続いています。(図3)

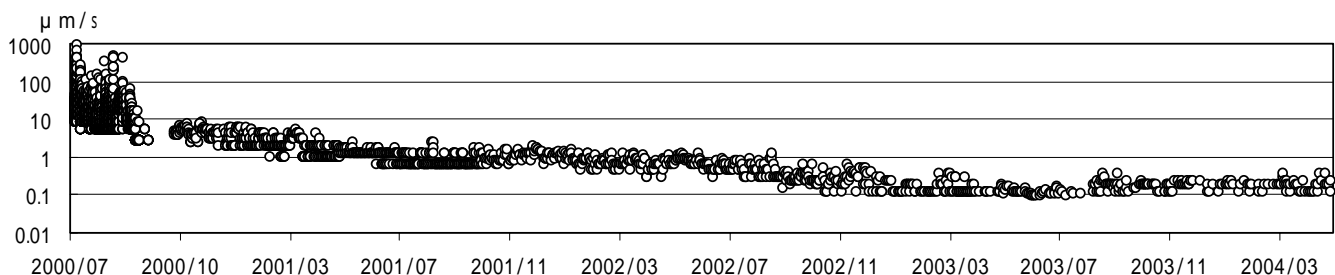


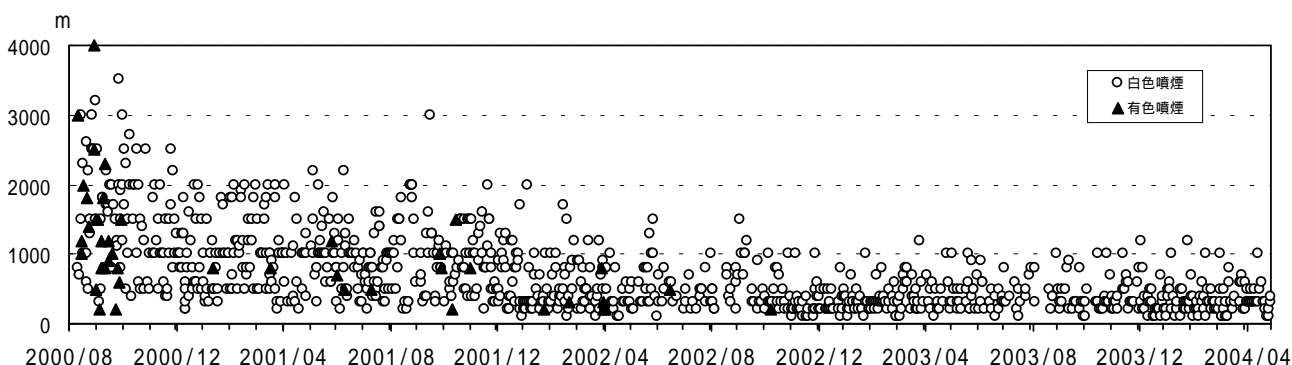
図3 三宅島 連続微動の振幅(2000年7月7日～2004年4月30日)

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上1,000m(5、16日)でした(図4)。



注:2000年8月29日に、白色噴煙8000mを観測。

図4 三宅島 日最高噴煙高度(2000年7月8日～2004年4月30日)

地殻変動の状況

GPS観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、2002年8月頃から停止していましたが、2003年6月頃から再び収縮傾向となっています。(図5 - ~)

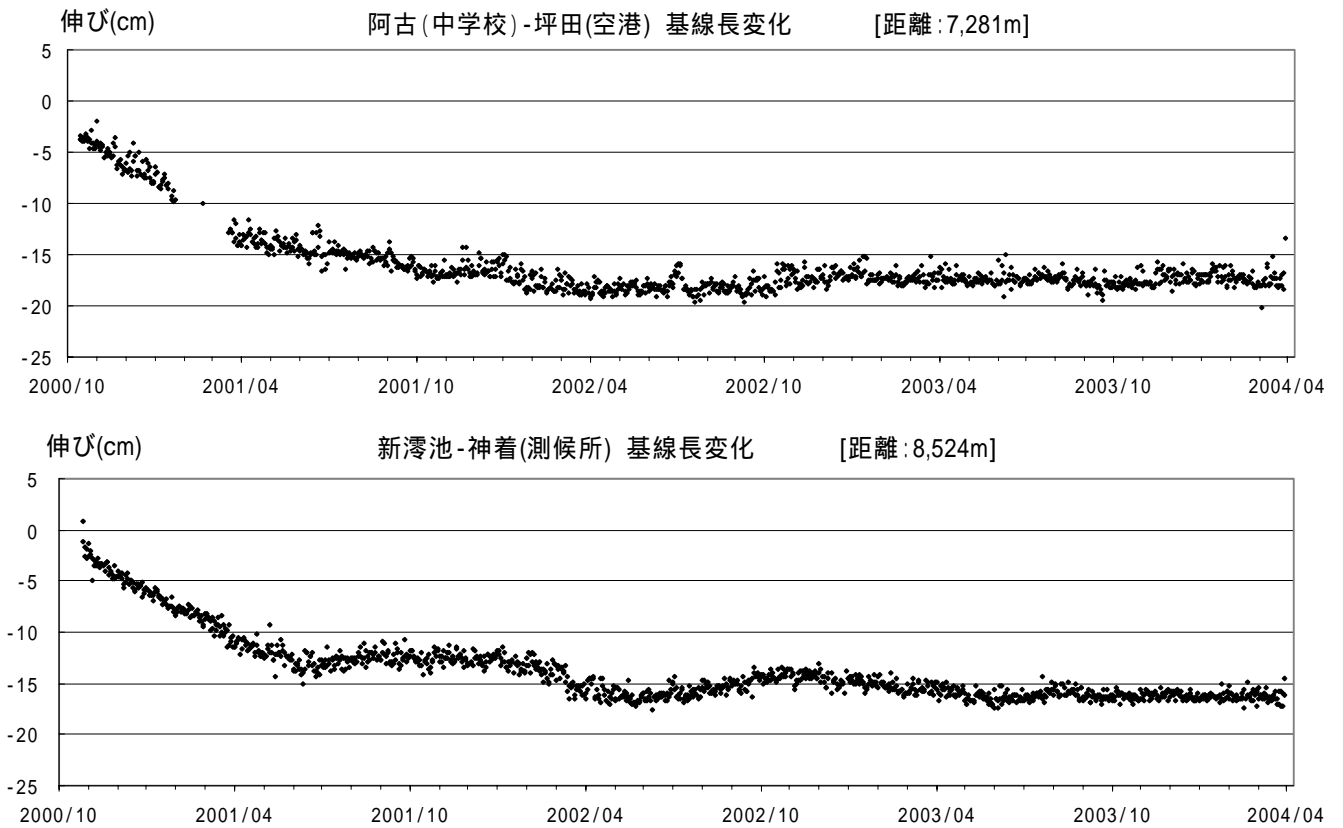


図5 三宅島 GPS観測結果(基線長変化) (2000年10月1日~2004年4月30日)

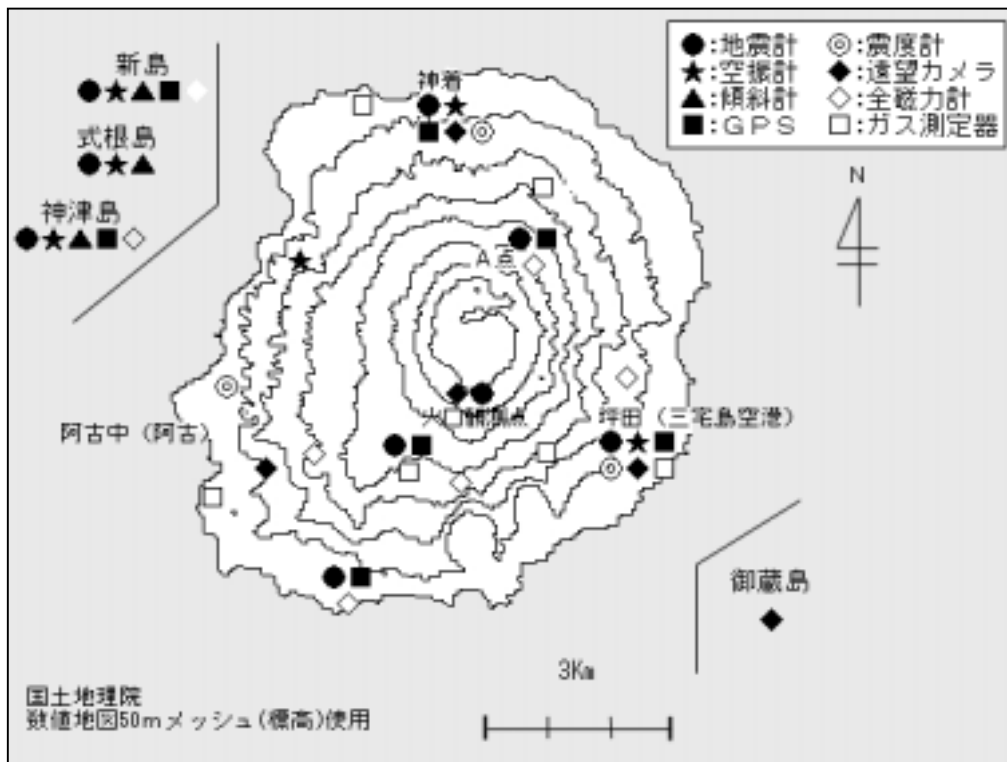


図6 三宅島 気象庁の観測点配置図